

## 令和元年度第2回米沢ブランド戦略会議 会議録

1 日 時 令和元年8月2日（金）13：30～15：30

2 場 所 米沢市役所3階庁議室

（出席委員）

戦略会議：柴田正孝会長、佐藤英司副会長、宮坂宏副会長、近藤哲夫委員、遠藤正紀委員、今村元一委員、坂川好則委員、鈴木里佳委員、伊藤浩志委員、齋藤和也委員、松本昭弘委員、吉澤彰浩委員、本多作之助委員、新田源太郎委員、安部宏海委員、奥山佳奈委員

事務局：本間米沢ブランド戦略課長、根津米沢ブランド戦略課長補佐兼米沢ブランド推進主査、佐藤米沢ブランド戦略課主任

アドバイザー：武発米沢ブランド戦略アドバイザー

### 3 会議録（要点のみ）

（1）開会

（2）委嘱状交付（交付の方のみ）

（3）議事

（4）閉会

（議長）

・議事第1番、報告事項、TEAM NEXT YONEZAWAの登録状況について。及び米沢品質AWARD2019への申請状況について。

※米沢ブランド戦略課長、資料①、②について説明。

（議長）

・TEAM NEXT YONEZAWAへの登録は落ち着き始めている。一方で、AWARDへの申請数は多いと思う。

・報告について、委員の皆様から質問や意見はないか？

（委員）

はい。

（議長）

・議事第2番、協議事項1つ目、TEAM NEXT YONEZAWA及び米沢品質AWARDの情報発信について。

※米沢ブランド戦略課主任、資料③について説明。

(議長)

- ・皆様から質問や意見はあるか？

(委員)

- ・毎年違うものを考えるより、5年後の目標に向かってストーリー性を持たせて、逆算的に今年はどこまでやるかを示した方が作りやすい。
- ・AWARDを受賞した後の支援策について、売るためにブランドを作るようになってしまわないか、というジレンマがあるので慎重に考えなくてはいけない。だがモチベーションを上げるために、戦略的には人の出入りの多い道の駅などに展示して、市内外に情報発信することが大事だと思う。

(議長)

- ・2024年で終わるのではなく、5年を1つの区切りとして、その後状況に合わせて繰り返していく。
- ・最終的には経済活動に結びつかないと、尻すぼみになる。品質を保持しながら伝達した結果、消費者、生活者に支持される結果を出さなければならない。

(委員)

- ・AWARDは米沢を代表するものなので、商売に繋げていく方がいい。米沢を代表する、米沢品質を高めていくという意識を持っていただくことが何より大切。
- ・TNYについて、まだわからない人たちがいる。そこへ、実際にお手本となっている人たちがムービーに出演することによって、TNYがどのような取り組みをしているのかベクトルを示す形になる。そこからTNY登録者を増やし、AWARDの申請者も増えていく方がより良い運動体になる。

(議長)

- ・今回のAWARDは世間から非常に注視されている。今回選ばれるものによって、次回以降に影響を与える。
- ・どのような趣旨のAWARDか、わかりやすいショートストーリーなどの広告ツールも認めると、もっと広がっていくのではないか。

(委員)

- ・「世間ではこういう見方をする」ということがわかる仕組みにしないといけない。

(米沢ブランド戦略課主任)

- ・AWARDに選ばれなかった人にも、審査員による項目ごとのコメントと総評のフィードバックをし、来年もAWARDに挑戦していただく。

(委員)

- ・米沢品質の活動を高めるためには、何が選ばれたか公表した方がいいが、選ばれなかった方の気持ち的に公開には問題があると思う。

(議長)

・色々な局面が考えられる。講評が的を射た指摘とも限らない。公開するかどうかも含め、今後の検討課題にしてはどうか？

(米沢ブランド戦略課長)

・はい。

(委員)

・AWARDにエントリーされた方の公表について、募集要項に記載はあるか？

(米沢ブランド戦略課主任)

・ある。

(委員)

・4～5分だと、ブランドムービーに内容を盛り込むには短いのでは？

(米沢ブランド戦略課主任)

・現時点でのイメージの長さ。最初のムービーも4分程度なので、割と盛り込めると思う。

(委員)

・最初のムービーはイメージビデオ風だった。今回ドキュメンタリー風にするのであれば、ある程度説明的な部分が必要になるので、4分では紹介しきれないのではないかと。

(米沢ブランド戦略課主任)

・現在の想定だと、8つ全部を平等に見せるのではなく、AWARDを受賞したものの枠を大きくし、加えて挑戦と創造をしている人たちの姿も見せるという構成。尺について、ディレクターや監督とも相談する。

(委員)

・見応えのあるものにするなら4分では足りないが、長くするとどこで見せるのか？という問題になる。  
・米沢品質向上運動は今後ずっと継続していくべきものである。市の予算が永遠に続くわけでもないので、TNYや品質向上運動が市民に定着し、市以外に事務局を移管して継続していく体制を作らなくてはいけない。  
・審査員それぞれが異なる視点から評価するので、的外れな指摘が出てくると思う。審査員の中で申請者に出すコメントを調整する形にした方がいい。  
・申請者へのフィードバックは、それ自体がインセンティブになり得るので、公開せず本人だけに提示されるべきではないかと。

(議長)

- ・イメージでサンプルをピックアップするものであれば、ダイジェストで短くしてもいい。

(米沢ブランド戦略課長)

- ・コメントを公表するか否かについて、審査員と打ち合わせしたい。

(委員)

- ・ブランドムービーの他に、AWARD受賞者のインタビューや、成功までの過程を取材した動画を見られるようにすると、TNYにとって参考にもなる。
- ・ブランド化して掘り下げていただきたいところがAWARDにいないので、もっと声をかけて輪を広げていただきたい。
- ・物品だけではなく、観光資源となるコトの申請も育つような空気づくりをお願いしたい。
- ・AWARD受賞者にはインセンティブがあるが、TNYの底上げや拡大の協力、支援プログラムに講師として参加していただくなどといった縛りも必要ではないか。

(議長)

- ・色々な方向性、多様性から混ぜ合わせて考えることは重要だと思うので、実行する方向で検討していただきたい。

(米沢ブランド戦略課長)

- ・はい。

(議長)

- ・協議事項2つ目、米沢ブランド戦略事業TEAM NEXT YONEZAWA支援育成プログラムについて。

※米沢ブランド戦略課主任、資料④について説明。

(議長)

- ・皆様から意見や質問はあるか？

(委員)

- ・第2回のワークショップの対象者は、第1回ワークショップ参加者だけか、不参加だった方も含まれるのか？

(米沢ブランド戦略課主任)

- ・全TNYが対象。

(委員)

- ・第1回の内容について何かしらのフォローアップがあれば、不参加だった方も第2回以降のワークショップに参加しやすくなる。

(米沢ブランド戦略課主任)

- ・資料を見たからといって内容を把握できるワークショップではない。感覚的な部分強い。

(米沢ブランド戦略課長)

- ・その件については、赤松さんと相談する。

(委員)

- ・過去の支援育成プログラムに参加していない新規のTNYが今後増えていく中で、感覚的なものだとしても内容を見られないのはもったいない。過去の分をまとめて見られる仕組みづくりが必要。

(委員)

- ・第1回のワークショップでアンケートを取ったが、次に生かせるものがあれば共有し、改善につなげられるのではないかな。

(米沢ブランド戦略課主任)

- ・アンケートはすべて集計し、赤松さんにフィードバックしている。内容を精査して皆様に共有し、プロジェクトで検討できるようにさせていただく。

(議長)

- ・そもそも発想ワークショップに参加することで自社について再検討し、ベクトルを合わせてAWARDに挑戦していただくことが大事。エッセンス程度でいいので、皆様に情報提供していただきたい。
  - ・協議事項3つ目、米沢品質AWARD2019 公開プレゼンテーション実施概要について。
- ※米沢ブランド戦略課主任、資料⑤について説明。

(議長)

- ・皆様から意見や質問はあるかな？

(委員)

- ・発表者の応援団が来るかもしれないと想定すると、フリー観覧席の数は少ないのでは？ 借りられるならホールを会場にした方がいい。人数に制限をかけるよりも、より多くの人に来ていただけるようにした方が、将来的にも盛り上がる。

(米沢ブランド戦略課長)

- ・ホールを借りるのは厳しいので、ひとまず今年は大会議室で行う。

(委員)

・プレゼンテーションの場は、皆が壇上の発表者に静かに注目するので、盛り上がるような雰囲気ではない。その点も踏まえて、プレゼンする方にとってどうなのかを考えた動きが必要。

(米沢ブランド戦略課主任)

・今年が最初なので手探りの部分はあるが、厳正な審査にして、それだけの重みのあるAWARDになってほしいと思っている。今年の状況次第では、来年以降ホールを借りてイベントチックにするなどの手法の変更も考えている。

(議長)

・公開プレゼンテーション実施概要について、承認ということによろしいか？

(委員)

はい。

(議長)

・全体を通して、意見や質問はあるか？

(委員)

・会場の後ろや廊下などのスペースにAWARDに選ばれたものを置けば、フリー観覧席の人たちも、自分たちが参加しているのだと感じていただけるのではないか。市だけで決めるのではなく、市民も審査に参加したことが伝われば、AWARDに選ばれたものを身近に感じていただき、そこから広めていただく方がより効果的だと思う。SNS向けの何かがあると、市民にも情報発信で参加していただけていいと思う。

(米沢ブランド戦略課長)

・掲示できるかどうか、検討させていただく。

(委員)

・TNYを増やすには、新しい人たちを発掘していかないといけない。継続していくためにも、登録していただくためのプレゼンやお誘いが必要。

・AWARDの応募は、他の人に誘われると、自分にAWARDが取れるのかと考える人も出てくる。その人が選ばれなかったとき、「誘われたのに選ばれなかった」と不満を抱く可能性もあり、難しい問題になる。AWARDの応募についてはあくまで自己責任。AWARDを取れる自覚がない人はあまり協力できないのではないか。

(委員)

・プレゼンテーションの後に受賞者や応募者同士が、アドバイスなどができる時間があるといい。

(委員)

- ・無関心層を巻き込むと言っていたが、実際にベースになるのは関心がある人たちの意見だと思った。

(議長)

- ・その他の事項について、事務局から連絡はないか。

(米沢ブランド戦略課長)

- ・ありません。

(米沢ブランド戦略課長補佐)

- ・以上で第2回米沢ブランド戦略会議を終了する。